

【平成30年7月1日 幹部候補生学校卒業式祝辞】

祝 辞

本日、ここ海上自衛隊第1術科学校大講堂において、第122期 幹部予定者課程卒業式が挙行されるに当たり、地元、江田島市民を代表して、お祝いの御挨拶を申し上げます。

幹部予定者課程を卒業される皆様、そして御臨席の御家族の皆様、本日は誠にありがとうございます。

今、こうして皆様の、規律正しく、凜とした姿を拝見いたしますと、ここ江田島で過ごされた日々の訓練が、厳しい中にも達成感を感じられる、充実したものであったと推察いたします。

私は、崇高な使命を担われている海上自衛隊の皆様を、誇りに思っております。皆様にはこれからも、旧海軍兵学校の伝統を受け継ぐ幹部候補生学校で学ばれたことを誇りとし、更にたくましく成長していただきたいと願っております。

さて、皆様御承知のとおり、入校から約4か月の間における、我が国を取り巻く安全保障環境に目を向けますと、去る4月27日には約11年ぶりとなる南北首脳会談、また6月12日には史上初となる米朝首脳会談が開催され、各会談において、非核化や平和体制の構築に向けた合意がなされるなど、その動きに期待する一方で、その具体策については先送りされるなど、楽観を許さない状況が続いております。

こうした中で、今、この瞬間も、洋上、海の中、空、陸上において、自衛隊員の皆様が、懸命に任務に就いていただいていることに、心から感謝申し上げます。

また、6月18日に発生した大阪北部地震を始め、近年、大震災や台風・豪雨災害などによる、甚大な被害が多発しており、被災者の復興に向けての力強い支援活動や、国連平和維持活動をはじめとする国際貢献等、自衛隊の皆様が寄せられる国民の信頼や関心は、益々大きくなっております。

どうか、本日御卒業される皆様におかれましては、この国の将来を担う、立派な指揮官になってくださることを、心よりお祈りしております。

皆様御承知のとおり、本年は、江田島市に海軍兵学校が移転設置されてから130年という節目の年に当たります。また、戦後において、昭和31年に海上自衛隊をお迎えしてから現在に至る62年間、江田島市は、海上自衛隊と共存共栄、一体不可分の関係で発展しており、自衛隊の皆様との「縁」や「絆」を大切にしてきた地でございます。

ここ海上自衛隊は、教育施設でありながら、観光施設としても年間約6万人の観光客を受け入れていただくなど、近代日本の歴史や、先の大戦を通じた平和の尊さを学ばせていただく、私共の誇りの施設となっております。

また、サマーフェスタを始めいたします、市の関連行事、古鷹山の道路整備など、多岐にわたり、地域に貢献をいただいております。

特に、6月16日には、NPO法人古鷹フレンドシップクラブとともに、皆様方に、入鹿海岸の海浜清掃をしていただきました。おかげを持ちまして、6月24日には、「SEA TO SUMMIT 2018」を開催し、市の美しい景観を全国の皆様にPRできたこと、また、市内外の皆様に気持ち良く海岸を利用していただけられることを大変喜んでおります。

心から感謝するとともに、今後とも、市民の皆様と一緒に協力関係をより強固なものにしていきたいと強く願っております。

皆様も、江田島市を第二の故郷として、折にふれ訪れていただければ、市民一同、心から歓迎申し上げます。いつの日か皆様とお会いできる日を、楽しみにしております。

結びになります。日本国の繁栄、海上自衛隊の益々の御隆盛、御発展、そして御卒業される皆様並びに御家族の皆様、御臨席の全ての皆様の、御健勝と更なる御活躍を、心よりお祈り申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。